大田区立入新井第五小学校 研究主任
2026年10月19日（月） 発行

校内研究だより＃３

社会部会

第５学年 社会科
「米づくりのさかんな地域」

《授業について》

10月8日木曜日、今年度3回目となる校内研究授業を行いました。今回の校内研究は、第5学年の社会科として、「水産業の盛んな地域の学習を基に、学習問題を予想し、学習計画を立てることができるようにする。」ことをねらいとして行いました。今回は、その様子をお伝えいたします。

①【導入】



まず、庄内平野の様子やスーパーマーケットの米の写真を見て、疑問を出し合いながら、本時のめあてを立てた。

めあて「水産業の学習をもとにして学習問題の予想をし、学習計画を立てよう。」

児童は、提示した資料に関心をもち、更に、前単元の水産業の学習が生かせることに気付けることができるようにすることで、本時への見通しをもてるようにした。

②【展開①（学習問題の予想をし、学習計画を立てる）】



水産業の学習で使用した資料や学習問題を提示することで米作りの学習問題を予想することができ、

・どのように米をつくっているのだろう（生産の工程）
・どのように米を運んでいるのだろう（輸送）
・米に関わる人にはどんな技術や工夫があるのだろう（技術の向上）
・どのように値段を決めているのだろう（価格や値段）

という4つの学習計画を立てることができた。

③【展開②（資料の活用場面の検討）】

9種類の資料を提示し、どの資料がどの学習計画を解決するために活用できるかをグループで検討した。更にグループごとに考えた活用の場面を全体で共有し、小単元全体の見通しをもてるようにした。

共通点を見付けたり、相違点に関しては、どうしてそこにしたかという根拠を発表したりすることで、児童は、他のグループの考えを理解し、計画の解決に対する見通しをもつことができた。





指導・講評

◎ 児童の発言を上手く拾って整理して板書したり、グループでの活動や前に集めて考えを共有するといった動きのある授業展開を工夫したりすることで、児童が生き生きと自然体に学習に取り組めていた。

◎ 事前に資料を提示して予想をするという活動は、どの児童にとっても分かりやすく、参加しやすかった。見通しがもてるという点でも、有効的であった。

△ 学習問題が、「米の運び方」についてのみの文言になっている。児童がそれ以上のことまで踏み込んで考えられていたが、予想や学習計画につながる文言にする必要がある。

△ 資料を並べる活動は、ICTを活用してもよかった。ICTをどこで活用できるかを、教師と児童が考え、どんどん活用していくことが大切である。

・「危機感を探求のエネルギーにする社会科」から、「知恵や工夫を重ねて課題を乗り越える事例を積極的に取り上げる社会科」にシフトチェンジしていってほしい。

・ 社会科は、共通体験を生かすことが大切。（今回の単元であれば給食を取り上げる）「もの」を見ながら、「ひと」の営みについて触れていく授業ができると良い。